

英国タクシー 新シンボルに

湯原温泉街、EDF事業に合わせ導入

真庭市の湯原温泉街で、食用廃油を精製して車の燃料に使う「真庭エコライフセル燃料(EDF)事業」が四月から本格スタートするのに合わせ、温泉街の新しいシンボルとして英国の「ロンドンタクシー」を導入する計画が進んでいる。レトロなデザインの車両を、春から宿泊客の送迎や温泉街を巡回する体験乗車に活用する方針だ。



湯原温泉街の新しいシンボルとして期待される「ロンドンタクシー」

4月から客送迎

食用廃油精製し燃料

座る独特のスタイル。乗車者が三人までなら脚を伸ばせるほどの空間が広がる。

車は昨年末に届き、四月までに観光案内などができる車内アナウンス設備を設置したり、EDF用にエンジン制御の適正化を図る。湯原町旅館協同組合の古林伸美代表理事が神戸市のタクシー会社から約百万円で購入。古林代表理事は「温泉街

のシンボルとして、活性化に役立てば」と期待している。

旅館などから集めた廃油を精製し、ディーゼル車の燃料として再生するEDF事業は、同組合とエコライフ商友(真庭市)が準備を進めている。EDFは排出される二酸化炭素や窒素酸化物、黒煙成分が軽油に比べ少ない長所がある。

(坪井克行)

多彩な造形「競演」

勝央で「アートの今」展

県内の造形作家十人の「末に岡山、高梁市を巡回。新作を一堂に集めた「アートの今・岡山」展が七日、勝央町勝間田の勝央美術文学館で始まった。流木や石、ガラスなど多彩な素材を生かしたユニークな造形作品の「競演」が来場者の目をひきつけている。二十二日まで。

同展は第三回おかやま県民文化祭主催事業の一環で、草間結雄県立大教員が来場者の目をひきつけている。二十二日まで。

川勢津子(さん)や、赤や青など百五十色のカラフルな糸を二重織りしたフアイバーアート「Fro

体手
国選
山知
岡愛

民泊家庭を再訪問

家族と再会、思い出談笑

行きたい」と思っていたという。

二人は五日夜、両家族の約十人と近くの集会所

英国民の足としてポピュラーなロンドンタクシーは二・七リッターディーゼルエンジンを積み、全長四・六メートル、幅一・七五メートル、観音開きドア(七人乗り)で、後席に四人以上乗車する際は向かい合わせに

に談笑。実村さんと数田さんは「再会できてうれ

しい。これからも交流を続けたい」と話していた。